

日本共産党 和歌山市会議員

# ひめだ高宏ニュース

No.1257

19.8.20

## 県・共産党地方議員研修会

8月19日(月)県下の日本共産党地方議員研修会がビッグ愛で開かれました。議員活動の基本と党建設(市町議員局長)、生活相談活動(梅本忠義)、水道会計と水道事業(高田厚義・東近かつらぎの議員)、自衛隊見守り(対する自治体の個人情報提供)古田県自治体部長)というプログラムでした。

## カジノ誘致反対の学習会

8月10日(土)県がマリーナシティに誘致しようとしているカジノ施設について、海南市カジノを考える会が海南市スポーツセンターで学習会を開き、私、ひ

めだも参加しました。

講師の桜田照雄阪南大学教授は、アメリカ資本のカジノの立地は、①アクセス条件がよくない、②敷地が狭い、③東京、横浜、大阪、

長崎という競争相手から見ても無理だと考えていたと述べたうえで、フランスのバリエールという事業者は規模都市ERへの入れを模索しており、ミュージカルやコンサート、演劇やバレエなどエンターテインメント(芸能企業)を得意としており、熊野古道や高野山、湯泉、豊かな食料など和歌山が持つ豊富な観光資源を生かしカジノ実施法でいつ送客機能の整備という点から誘致の可能性が高まったと警告を發しました。

バリエールはフランスとスイスで40数軒のカジノ施設、20の高級ホテル、12のレストラン、バーを経営するヨーロッパのカジノの

営するヨーロッパのカジノの筆頭企業とのことで、和歌山のカジノはスロットマシンが中心に計画されるの

## それでもカジノ建設は「割に合わない」

### 今週のフツーの人々 (その203)

あまり運動は恐ろしい

恐ろしいことです。暴力で押さえつける、いじめや虐待は、おどろしいものです。

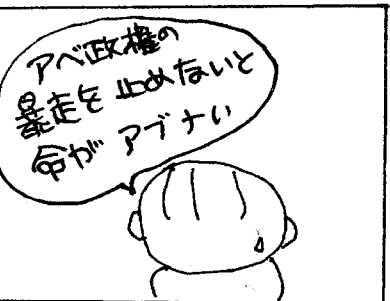
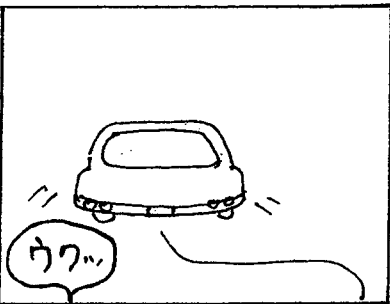
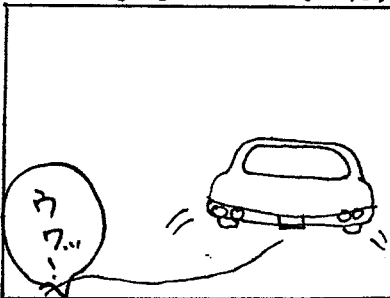
蛇行運転を繰り返すと

言えば、コウなくとも憲法の議論を行うべきだといのが参院選での国民の審判だ」と、憲法改正に前のめりになっているアベ首相の迷走ぶりを思い浮かべる私です。アベ首相の呪縛から逃れるためには、政権交代がどうしても必要です。



ひめだ高宏

## フツーの人々 (1040)



世の中、いやな事件が次々起こり、しかもテレビは、その映像を繰り返し流します。おかしいことにチャンネルとタイムは別なのに、同じ時間帯に同じような映像が流れる仕組みになっているようです。あまり運動に加えて殴打事件。映画でもないのに白昼、あんな蛇行運転を繰り返したのちに無理やり車を止めさせて何発も人を殴るとは、

梶田教授は、和歌山のカジノで建設費など2800億円の投資があったとしても、必ず発生するギャンブル依存や逸失利益、社会的損失はそれ以上に大きく、

## 有田市議会議員選挙

9月1日告示  
8日投票

9月1日告示、8日投票  
有田市議会議員選挙が行



小西のりたみ  
初島町在住  
67歳。1983年  
から1期有田市議

カジノ建設は「割に合わない」とし、「公共の福祉」に反するため自治体がカジノを誘致するのは憲法違反だと指摘。反対運動を強めようと呼びかけました。

われまず。日本共産党は12年ぶりに小西のりたみさんを有田市議候補とし、空白議席克服に挑戦することになりました。小西のりたみさんは、7年前に大病を患

い、身体障害者手帳を持つ身になりましたが、病を乗り越えて体調管理もできるようになり再び市民に役立つ仕事をしたいとがんばっています。小西のりたみさんは子どもとの医療費や高校卒業まで無料に、学校給食の無料化、7億円の基金を利用し国民健康保険税引き下げ、浸水対策の強化などを公約にあげています。小西のりたみさんへの支持を広げてください。よろしく！

## こんにちは日本共産党です

食料自給率さらに低下

2018年度の日本の食料自給率（カロリーベース）は、これまで最低だった1993年度の37・37%を下回る37・33%で過去最低を更新しまし

た。アベ政権は現在、日米貿易協定の交渉を加速し、米国が求める農産物輸入の拡大を進めようとしています。トランプ大統領は5月、日米貿易協定交渉について「TPPには縛られない」と断言しました。TPPでは、農林水産物のわずかに7・7%の品目に関税が残っているだけです。

農水省は2007年2月、関税を全廃した場合、日本の食料自給率が12%まで低下すると試算を発表しています。日米貿易協定で農産物輸入「自由化」をいっそう拡大しようとするアベ政権は、食料自給率の低い、食料安全保障の面で弱い国へ導こうとしています。

## 潮流

(19.8.12 甲府県)

「ニート・ニート」に交じってミンミンゼミが鳴きだしました。小中学校の夏休みの宿題

撃を受けるからと、海洋放出に強く反対。昨夏の公聴会でも、タンクでの長期保管を求める声が上がっていました。東電のタンク計画は2020年末までしかありません。一方で汚染水は毎日170トン増えており、いずれ満杯になるのは誰の目にも明らかでした。東電は今回、タンク「満杯」の時期明示と合わせ、タンクでの長期保管に難色を示しました。取り出しを計画している溶け落ちた核燃料（デブリ）の保管施設など廃炉作業に必要な施設を設置できないと、もう限界、なんとかして」と宿題を投げ出すかのよう。しかし、委員の一人は「地元の人は生活を犠牲にして廃炉をすすめるのは、論理が破たんしている」と。国民的な議論の場が必要な問題です。

だったか、画用紙にミンミンゼミの水彩画を描いたことを思い出します。辞書で「宿題」を引くと、家に帰る学習課題のほか、「後日に解決の残さびている問題」「口広辞苑」とも。8年前に事故を起こした東京電力福島第一原発をめぐる宿題は多く、汚染水問題もその一つ。事故収束を困難にしています。東電が第一原発で増え続ける放射能汚染水をためるタンクが3年後に満杯になると公表しました。タンクには、高濃度の放射性物質トリチウム（三重水素）などが含まれています。国の委員会では海洋放出などの処分方法を検討しています。しかし、地元の水産関係者などは風評被害で漁業が壊滅的な打

赤旗

日刊紙  
3497号  
9月30日